



1 長勝寺

津軽氏の祖である大浦光信の菩提を弔うため享禄元年(1528)に種里(鯉ヶ沢町)に創建され、大浦氏の居城とともに移転した。現在地への移転は、弘前城築城に伴い城の南西に禅林三十三ヶ寺を移して長勝寺を惣祿としたことによる。本堂は、慶長15年(1610)新たに造営され、庫裏(くり)は大浦城の台所を移築したとも伝えられている。



【本堂】八室からなる大型の本堂で、当初の形式をよく伝えている。創建以来、たびたび改造・修理が成されてきたが、平成17年度から20年度にかけて大規模な修理を行い、宗教行事と維持管理の上で支障のない限り当初の形式に復旧整備された。

【庫裏】大浦城台所を移築したと伝えられ、側柱と中央通りの柱を揃えて立て、各柱に登梁(のぼりばり)を架け渡し、これに小屋束を立てて和小屋を構成する。



【長勝寺三門】寛永6年(1629)に二代藩主信枚により建立されたもので、江戸時代初期の重要な建築遺構の一つである。以後数回修理を受けたが、文化6年(1809)の大修理で、下層に花頭窓(かとうまど)を設け仁王像を置くなど形式上の変更がなされた。

【長勝寺御影堂】初代藩主信の木像(県重宝)を祀った堂で、内部の厨子と須弥壇は重要美術品に認定されていた。創建は三門と同じ寛永6(1629)と伝えられ、文化2年(1805)に正面を南から東に改め、全面的な彩色工事が実施されたという。



【津軽家霊屋】御影堂より南へほぼ一線に並び、いずれも東面に玉垣で囲われ正面に門を置いている。五棟とも方二間、入母屋造、こけら葺で妻入である。いずれも江戸時代前期から中期に属するもので、本

格的造りになる霊屋が建ち並ぶ景観は優れており、年代の明らかな近世の霊屋群として重要である。



【黒門】長勝寺の門として最も東側に位置し、同寺の総門(表門)にあたる。建立年代は定かでないが、延宝5年(1677)以前には現在地に門はなく、100メートルほど長勝寺寄りに下馬門があったことが文献から推定され、貞享4年(1687)以降の史料では現在地に門の表示があることから、この10年ほどの間に、門が作られたと思われる。

【銅鐘】もと藤崎にあった満蔵寺(現万蔵寺)に寄進されたものと伝えられる。伝承では、同寺の開基は鎌倉幕府の五代執権北条時頼で、もとは臨済宗に属し護国寺と称したという。その後曹洞宗に改め、慶長年間弘前に移ったものである。鐘は、嘉元4年(1306)の紀年銘が切られているところから嘉元の鐘と呼ばれる。中世を知る文献が少ない当地にあって、北条氏と津軽の関係を示す貴重な資料である。



【長勝寺構】慶長15年、新城建設に着手した二代藩主信枚は、堀越並びに近隣地域の寺院神社に対して新しい城下町に移るよう命じた。そしてこれらの寺社は、城下の要衝に配置されたが、西南の押えとなったのが長勝寺を中心とする寺院街である。元和元年(1615)1月、南方の茂森山が城郭より高く城を見下すという理由からこれの切崩しにかかった。また同年3月から長勝寺門前と茂森山の間に濠を掘り、土居を築き、柵形を設けた。寺院街はその西に置かれ、曹洞宗の寺院だけ三十三ヶ寺で構成された。その周囲、北から西にかけては崖地で、自然の要害となっている。これが弘前城の外曲輪、長勝寺構である。城下町弘前の歴史と、弘前藩の宗教政策を知るうえで重要な地域である。

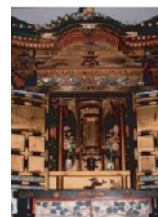
2 栄螺堂

天保10年(1839)頃、弘前の豪商中田嘉兵衛の寄進により創立され、『津軽古今偉業記』によれば大工は秋田屋安五郎なる町大工であったと記され



ている。内部は右回り廻廊と直進階段を併用して昇降する。六角堂と俗称される。

3 隣松寺



【久祥院殿位牌堂】元禄5年(1692)に死去した実母久祥院のために、四代藩主信政が菩提寺隣松寺に寄進したものである。台座に置かれた総黒漆塗の位牌堂で、これに付された金具や細工物に特徴がある。金箔を押しした扇軸釣り観音開きの唐戸、細工を組み合わせた格子天井など誠に凝ったものである。桃山時代の特徴を残した元禄時代の様式をよく表現し、地方色豊かな位牌堂である。

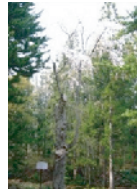
4 熊野宮本殿

創建は不明であるが、かつては「熊野三所飛龍大権現」といい、俗に「袋の宮」と称されていた。門外村(弘前市門外)の新宮と田町(弘前市田町四丁目)の本宮(熊野奥照神社)とともに、熊野三所権現を摸したものとされる。現在の本殿は、棟札から慶長20年(1615)の建立と思われる。



5 天満宮

領内修験(山伏)の触頭を勤めてきた大行院のあったところ。明治5年(1872)、修行廃止の命令が出て、大行院が廃止となり、急ぎよ愛宕山橋雲寺(旧岩木町)から菅原天神を移建して天満宮としました。天満宮は茂森町一帯の鎮守で、樹齢500年以上といわれる県天然記念物のシダレザクラがあります。



6 禅林三十三カ寺

禅林三十三カ寺は、長勝寺構のなかの寺院の総称で、一部を除いてすべて慶長年間(1596~1615)にこの地に移ってきた寺院である。

7 普門院(山閑)

延宝6年(1678)、茂森山にあった観音堂が4代藩主信政によって再建され、享保3年(1718)の焼失後に建立されたのが現在の御堂という。大正7年寺格を得て「普門院」となり、禅宗三十三カ寺に加えられた。津軽三十三観音の第33番札所である。山観の宵宮は弘前市内で一番早く行われ、市民に親しまれています。